

令和4年度

施政方針

愛すべき郷土（ふるさと）
高石市のさらなる
飛躍・発展をめざして

3月に開催された第1回高石市議会定例会において、阪口市長は「第5次高石市総合計画基本構想」を軸に令和4年度施政方針を発表しました。計画の5つの目標である「明日の担い手を育む」、「みんなで支え合い、健やかに過ごせる」、「安全・安心で快適に暮らせる」、「人を惹きつける魅力と活力があふれる」、「持続可能なよりよい未来へつなぐ」に沿って、施政方針の概要をお知らせします。

※施政方針の全文は市ホームページでご覧いただけます。

問合先 総合政策課

☎(275) 6034



施政方針を発表する阪口市長

令和4年度の財政見通しについては、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しているため、市税収入が伸び悩み、昨年度に引き続き厳しい財政状況となることが見込まれます。このような財政状況の中で、人口減少・少子高齢化の進展や新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動との両立等、喫緊の課題を解決しつつ、デジタル化や脱炭素社会の実現など、新たな行政課題への政策推進に向けて、より効率的かつ健全で安定した行財政運営に取り組んでいく必要があります。

今後とも、国や大阪府の動きにあわせて、引き続き、市民の皆様とともに、新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動の維持にしっかりと取り組んでまいります。

「明日の担い手を育む」

■生きる力と夢を育むために

学校教育については、コロナ禍のオンライン授業でも成果を上げている「GIGAスクール構想」を今後さらに加速させます。デジタル教科書の活用については、令和3年度は実証事業として5校で1教科ずつであったものを、令和4年度では国の事業の拡張と市独自の支援により、全10校における、英語、算数(数学)、理科の科目で積極的に活用します。また、ネイティブの英会話やAIドリルを使った、より高度な授業への改善と個別最適化の学習などにより、学習指導要領の求める「主体的・対話的で深い学び」のある授業を構築して、学力向上に取り組めます。



■産後の支援を強化

産後の健康管理や生活のアドバイスなど、「からだどころ・育児のサポート」に対応するため、産後ケア事業において宿泊型及び通所型に加えて、新たに訪問型を開始し、より一層、産後の支援を強化します。



■民間活力を最大限に活用

高師浜総合運動施設に、新たにスケートボードパークの整備を行い、指定管理者が実施するスケートボード教室等で技術やマナーの向上を図るとともに、市内外を問わず多世代の方々がスポーツを通じて交流するコミュニティの場として、利用促進を図ります。



「みんなで支え合い、健やかに過ごせる」

■健康で充実した毎日を

ふれあい健康増進センターはコロナ禍により休業せざるを得ない状況で利用者は減少しましたが、市民の健康づくりに関するニーズは高く、再開後は利用者が回復しつつあります。今後も、温水プールやフィットネスジムの利用を通じて、心身ともに健康をめざすことができる環境を提供します。令和4年度は、温水プールのボイラー交換など、さらに多くの方々により快適に利用していただけるよう適切な維持管理に努めます。



■住み慣れた地域での暮らし

高石市シルバー人材センターを旧高陽幼稚園に移転し、併設される南海愛児園の地域子育て支援センターも含め、施設の有効活用が進み、利用者も増え活発な活動が図られています。今後とも、高石市シルバー人材センターの会員拡充に向けた様々な研修や講座等を実施し、就労機会の創出につなげていきます。

また、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、高石市障がい者基幹相談支援センターにおいて、関係機関との連携を進め、障がいのある人やその家族の皆様にご利用していただきやすい相談支援体制や、いつでも気軽に情報提供できる体制のさらなる充実を図ります。

■多世代が集う場の創出

コミュニティセンターに老人福祉センター瑞松苑が移転し、4月からリニューアルオープンします。これにより災害にも強い公共施設として、それぞれの機能を活かしつつ、あわせて維持管理経費の縮減とともに、今後、より一層の利用促進を図ります。



■“孤立”を防ぐために

「孤立ゼロプロジェクト」について、社会福祉協議会を中心に校区福祉委員や民生委員、自治会など地域住民のお力も頂戴しながら、進めてきました。行政や介護事業所・グループホームといった地域の社会資源とつながりがなかった世帯について、約1万2千軒を訪問し、生活課題の有無、支援の要否などを可能な限り把握し、内124件については支援につなげていくことができました。今後もそういった方々に対して伴走的支援を継続するとともに、アウトリーチ型の訪問活動を展開していきます。



「安全・安心で快適に暮らせる」

■地域防災力を高めるために

各地区の自主防災組織に対し、地区防災計画の作成について啓発しているところですが、これまでに5団体で作成され、独自の防災訓練などに取り組まれています。

今後、作成を加速させるために、各中学校区単位で、その5団体から先行事例を発表していただき、あわせて発災時には行政と住民とのパイプ役となる高石市消防団にもアドバイザーとして参加いただきながら、自主防災組織連絡協議会と連携して支援を進め、全ての自主防災組織において、地区防災計画の作成を進めます。

また、毎年多くの市民の参加を得て実施している地震津波総合避難訓練を引き続き実施し、あわせて地区防災計画に基づく避難訓練も地域と連携しながら実施します。



■コロナ禍での避難所運営

災害時の備蓄品につきましても、分散備蓄の観点から、令和元年度から計画的に小・中学校に備蓄を進めているところであり、今後も順次、計画的に主要品目の備蓄に取り組むとともに、コロナ禍における避難所のQOL向上のためのワンタッチテントや段ボールベッドなどを含め、民間企業等との災害時応援協定などによる流通備蓄の確保もあわせて進めます。

「人を惹きつける魅力と活力があふれる」

■歩きたくなるまちの実現へ

主要駅の周辺整備につきましては、ウォーカブル推進都市として「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の実現に向け、駅前広場の芝生化等の整備をするとともに高架下や東西の駅周辺の活性化に向けた整備を進めます。

また、地方創生第2期の取り組みとして、子育て世代をはじめ多世代の市民や民間事業者を選ばれるまち、また交流人口なども含めた人口増と雇用の創出など、みんなが集い、住み続け、生涯活躍できる魅力あるまち「たかいし」を実現するため、リノベーションまちづくりを推進し、旧保健センターを高石市民連携推進協議会の拠点とし、多世代が交流できるコミュニティスペース等に整備することで、さらなる駅周辺の活性化につなげていきます。



■海辺のにぎわいづくり

「高石シーサイドフェスティバル」は令和3年度も残念ながら中止となりましたが、地域活性化イベントとして、「高師浜REBOOT2021」を実施しました。令和4年度につきましては、イベント開催を取り巻く情勢を実行委員会と見極めながら、実施について検討していきます。

「持続可能なよりよい未来へつなぐ」

■地球温暖化対策実行計画

現在、策定中である「高石市地球温暖化対策実行計画」の基本的な考え方として、産業、家庭等、各部門において、温室効果ガスの削減に取り組んでいかなければなりません。特に、臨海コンビナートを含めた産業部門に対しては、カーボンニュートラルに向けた産業構造の転換を促していきます。本市としては、本年4月から企業立地等促進条例に基づき、省エネルギーや再生エネルギー等の関連事業など、新たな産業への設備投資に対し、固定資産税等を5年間課税を免除する支援を行います。



■4R推進の継続

市民の皆様には、さらなるごみの減量化・4R（リフューズ（発生回避）・リデュース（発生抑制）・リユース（繰り返し使用）・リサイクル（再資源化））の推進に引き続きご協力いただくとともに、緑化の推進や省エネルギーに即した生活への転換の普及・促進に向けた取り組みについて、環境・廃棄物リサイクルフェアや市広報等を通じ周知していきます。



■脱炭素社会の実現

市民・事業者・行政が協働し、2050年ゼロカーボンの実現に向け、地球温暖化対策に関する施策を推進していくため、「地域脱炭素計画」を策定していきます。

さらに、環境省の「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」に賛同し、広域的にも持続可能な循環共生型の社会を実現させ、SDGsを地域で実践するいわゆる地域循環共生圏を本格的に構築していきたいと考えます。



市長あいさつ

内陸部面積約6km²のなかに6つの駅がある本市の特徴を大切にしながら、長年、高石市にお住まいいただいた高齢者の皆様、新たに高石市にいられた子育て世代等の若年層の皆様、そして元気な子どもたちに向け、高石市は「みんなが輝く育みと健幸の住みよいまち」をめざして、これからも頑張つてまいります。一日も早く新型コロナウイルス感染症を克服し、市民の皆様が安心して暮らせる、夢と希望あふれるこの愛すべき郷土（ふるさと）高石市のさらなる飛躍・発展をめざし、今後とも、職員一丸となりベストを尽くしてまいります。

阪口伸六

